

① 小学校	学校保健委員会(児童対象・職員対象)		
対象者	①小学校6年生 ②教職員	派遣時間	120分
外部講師	がん専門医		
対象者及び参加人数	1 児童生徒(96)名 2 教職員(24)名		
設定場面	学校保健委員会 ①テーマ『がんについて知り、今自分にできることを考えよう』 ②テーマ「学校におけるがん教育のあり方について」		
ねらい	①がんについて正しい知識を身につけ、生涯、健康な生活を送るために役立てる。 ②がん教育への理解を深め、指導につなげる。		
実施内容	<p>【事前の準備・打ち合わせ等】 アンケート調査・家族をがんで亡くした児童のフォロー</p> <p>【当日の概要・内容】 ○6年児童対象・・・「がんの話」 *テーマ『がんについて知り、今自分にできることを考えよう』 がんの正しい知識・がんに困らないために気を付けたいこと・がんになった人に寄り添う気持ち・学んだことをこれからの生活でどう活かしていくか</p> <p>○職員対象 *「学校におけるがん教育のあり方について」 がん教育推進の経緯・がん教育の目標・学校でのがん教育のあり方・他教科とのつながり・文部科学省がん教育推進の補助教材の紹介・本校におけるがん教育の実践・意見交換(がん教育の授業を受けた児童の反応・実際にがんの児童を受け持ったことのある先生の話・保護者をがんで亡くした6年児童の担任の話など) *講師のお話「私が考えるがん教育の基本的なスタンス」 なぜ学童の時期にがん教育?・学童へのがん教育の目的・家族ががん患者の小学生の話・小児がん経験者の小学生の話・がん教育で何を伝えたいか・がん教育の具体的な内容・誰がどう伝えるか(医師としての役割、教師としての役割)・配慮すること・命の教育についてなど</p>		
成果・感想	<p>【6年生担任】 子どもたちは、真剣な表情で講師の話の間聞くことができた。また、がんになった人の気持ちや自分たちにできることなどを積極的に意見交流することができた。事前事後のアンケート調査や感想(別紙)からも分かるように、子どもたちは、がんの正しい知識を身につけ、自分の生活習慣を見直したり、家族とがんについて話し合ったり、将来検診を受けようという気持ちになったりすることができた。</p> <p>【職員】 多方面からがん教育について語り合い、講師から医者としてのがん教育のあり方についてお話をしていただき、がん教育について教職員で共通理解をすることができた。がん教育により、自分や家族の健康を守るための知識だけでなく、様々な人と共生する社会の一員としての姿勢や命の大切さを伝えていくことが我々教員の果たすべき役割であることを実感した。今後の学校でのがん教育の第一歩となったと思うので、実践を進めていきたい。</p>		
<p>【学校保健委員会の様子】</p> <p>「がんの話」(6年児童)</p> <p>「学校におけるがん教育のあり方について」(職員対象)</p>			
			